

# 首都研ネットワーク

## 【研究例会】第111回例会

〔日時〕2019年3月16日(土) 13:00～16:40

〔会場〕川崎市公文書館2階大会議室(神奈川県川崎市中原区宮内4丁目1-1)

12:30～13:00 川崎市公文書館館内見学会(希望者のみ)

\*希望者は当日12:30までに事務室までお越しください。例会は13:00より開始いたします。

①報告 菊地悠介・伊藤哲平(川崎市公文書館)

川崎における地域形成の過程—古代から近代を概観して—

②報告 佐々木恵海(川崎市公文書館/学習院大学人文科学研究科史学専攻博士前期課程)

20世紀前半の川崎市における住宅政策と都市行政の展開

③書評会 中村元『近現代日本の都市形成と「デモクラシー」—20世紀前期/八王子市から考える—』(吉田書店2018年3月)

書評者 松本洋幸(大正大学)

リプライ 中村元(新潟大学)

討論・質疑応答

## 【次回の研究例会】2019年度総会・第112回例会

〔日時〕2019年6月29日(土)か7月6日(土)の午後

〔会場〕立正大学品川キャンパス(予定)

〔内容〕マイクロ・ヒストリー研究会関連シンポジウム

「自治体史編さんの現状と課題(仮)」

### 首都圏形成史研究会事務局(問合せ先)

〒231-0021 中区日本大通3番地 横浜開港資料館気付

吉田律人/西村健

郵便振替口座/首都圏形成史研究会 00290-5-134345 年会3,000円

電話:045-201-2169 FAX:045-201-2102

## 新刊案内

### 大矢悠三子『江ノ電沿線の近現代史』

(クロスカルチャー出版、2018年) A5判 177頁 1800円

現在の江ノ電の路線が誕生したのは、今から約1世紀前のことである。東海道線の国府津までの延伸、横須賀線の開通に伴い、首都圏の保養地・別荘地、あるいは行楽地として湘南海岸が注目を浴びるなか、江之島電気鉄道が1902年に藤沢～片瀬間で開業し、1910年には藤沢～鎌倉間が全通した。以来、江ノ電は現在に至るまで湘南を語る際の不可欠なアイテムとなっている。本書は、江ノ電の各駅が見せるいくつもの顔を、その歴史とともに紹介していく。

- 第1章 江ノ電の開業 —湘南トライアングルの形成—
- 第2章 湘南の大都市・藤沢
- 第3章 憧憬の鵜沼 —開発分譲型別荘地の嚆矢—
- 第4章 大東京の風景地と湘南海岸
- 第5章 湘南のランドマーク —不思議アイランド・江の島—
- 第6章 海岸線 —「江ノ電のある風景」の変貌—
- 第7章 雛の地、聖地となる
- 第8章 鎌倉を愛した文士たち
- 第9章 由比ガ浜に海浜院ありき
- 第10章 古都・鎌倉に遊ぶ、暮らす

読者は、これらの江ノ電の沿線地域が見せる様々な顔から、「湘南」イメージの多様性と歴史的重層性を感じ取ることができるであろう。加えて、「タンコロ」に代表されるノスタルジックな側面ばかりではなく、時代とともに変化し続ける江ノ電の動的な姿（著者の言葉を借りれば「その時代遅れと最先端の魅力」）にも、気づかされた。

なおクロスカルチャー出版は、本書のほかにも小田急・京王・京急など、首都圏の私鉄沿線の近現代史をテーマにしたシリーズを出版している。  
(松本洋幸)

## 小研究会の活動状況

現在、首都圏形成史研究会内では、3つの小研究会が活動しており、それぞれ研究成果の発表に向けて準備作業を進めています。

【首都西郊研究会】 連絡先／岡田直（横浜都市発展記念館）045-663-2464

2018年12月1日（土）に首都西郊研究会公開研究会「首都西郊と軍事空間」を、横浜市歴史博物館との共催で開催いたしました。

【首都圏災害史研究会】 連絡先／吉田律人（横浜開港資料館）045-201-2169

代表の土田宏成会員を中心に首都圏災害史年表の作成に向けて鋭意準備中です。2018年9月8日（土）開催のシンポジウムでいただきましたご意見をもとに、年表作成に関する基礎データの収集に取り組んでおります。

【マイクロ・ヒストリー研究会】 連絡先／事務局 045-201-2169

マイクロ・ヒストリーの視点から、地域史の様々なテーマを考察することを目的とした研究会です。参加希望者は事務局までご連絡下さい。また、本研究会関連シンポジウムを次回の例会で開催する予定です。詳細は次号に掲載いたします。